

3 今月の青果物

とうもろこし

主要産地のとうもろこしの入荷量(東京都中央卸売市場)

産地	2023年度7月入荷量	2023年度7月シェア率
千葉	1,522 t	30.7 %
茨城	1,906 t	38.5 %
群馬	809 t	16.3 %
北海道	76 t	1.5 %

7月入荷予測	4,700t(前年比94.9%、平年比101.9%)		
7月価格予測	210円(前年比95.3%、平年比92.3%)		
7月市況予測	(上旬) 保合 ⇒	(中旬) 保合 ⇒	(下旬) 保合 ⇒

今後の競合産地の動向は?

東京都中央卸売市場では、7月上旬～中旬がとうもろこしの入荷ピークとなっています。5月中旬から千葉・茨城県産の入荷量が増加していき、関東産地のピークを終えた8月～9月は北海道産が中心となります。

2023(令和5)年の年間入荷量シェアは、茨城県が23.8%、次いで千葉県が17.6%、群馬県が16.0%となっています。

千葉県ではハウス作・トンネル作→露地作と作型が遷移していき、7月前半はトンネル作と露地作両方の入荷がある時期です。面積的に最も大きな銚子地区の露地作は、4月下旬播種が中心となっており、収穫期にあたる7月中旬～下旬に千葉県産の入荷量が最も多くなります。

とうもろこしは、播種から80～90日が収穫の目安となり、「恵味86」「ゴールドラッシュ90」のように、目安日数が併記された品種もあります。また、粒の色は品種によってイエロー種、ホワイト種、黄色3:白色1の割合で混ざるバイカラー種とさまざま、千葉県産の系統出荷はイエロー種が中心となっています。

現在は、3月下旬～4月上旬に播種したものが収穫されています。温暖な日が続いているため、生育はやや前進傾向で、強風による倒伏等の減収要因もないため、入荷量は平年並となり、「海の日」にピークを迎え、潤沢な入荷が見込まれます。

